

に大阪の汎愛扶植會、新潟の慈悲喜捨團、岐阜の日本育兒園、北海道の山谷孤兒院、相模の小兒保育院、東京帝國孤兒院、大阪聖約翰學院、東奧盲人教訓會、防長婦人相愛會、神戸孤兒院、東京育成園、神戸學習院、山陰慈官家庭學園、高知育兒院、大阪孤兒院、播磨慈善會育兒部の十七團體に過ぎず、而して其所屬學校及員數は中學校十一名、商害學校八名、工業學校三名、農學校一名、染織學校二名、關西學院四名、同志社一名、盲啞學校一名、高等女學校五名にして、其他は團體内に受教者五十余名なり。右の如き少數の團隊と少數の人員とを現在の團隊と收容の人員とに比較せば、如何に孤兒養育事業の旺盛なることを謳歎せんとする人も、養育の實質に於て、不完不備なることを、拒む能はざるべし、個人の教育は國家にとりても利益なりとせば、國家は時世の進歩に従ひて、國民の義務教育を、延長するの必要あるごとく、個人の發展は社會の進歩を促すものとせば社會は不幸なる同胞即ち恃愴なき孤兒の教育を保護せずして可ならんや、俊秀なる孤兒の才能を

發揮せしめずして可ならんや、今や文運の進歩に促されて、孤兒養育事業も亦大に發展せんとするの時、吾人は仁慈に富める志士と共に割合に古き経歴と割合に多くの設備ある孤兒養育事業に一臂の力を添へて完全に發達せしめ、折角の事業をして、遺憾なきを期せしめんことを欲するものなり

### 此頃の料理

石井泰次郎

茄子のしき焼  
 茄子は成るべく大なる宜しきものを撰び薄刃庖丁にて皮をくるくると剥き、直に水に取り入れておくを出し（皮は剥かすともよし）、洗つて三分位の輪切りになし、竹串或は金串にさし、(四五切列)へ置きて串二本さすなり、兩面に胡麻の油をぬり能く中まで油の染みるやう、細串にてつゝき、いくつも小ささを穴をわけ、かくて火に掛け焼くなり返しししながら柔らかになる迄焼き、煉味噌を

両面へぬり付け、又少し炙り、三切或は五切位皿

に盛る、

練味噌は、茄子を焼く前につくり置くべし、其拵

へ方は、茄子十箇位につきて味噌六十匁までを摺

鉢にて能く摺り、馬尾篩にて裏漉しなし、鍋に入

れ砂糖二十匁、味淋酒三匁、水少々等を加へて火

にかけ木杓子にて能く煉り、火より卸し、冷して

後、鶏卵一箇を割り入れかきまぜ置きて用ふるな

り、生の玉子を入れ置く時は、茄子にぬりつけ火

にあぶり、うらがへしなどしても垂れ落ちるなど

の事なく、工合よろし。

よせ午莠

新午莠の成るべくわかく細きものを、葉の方は切

り去り、皮は庖丁刀のむねの方にてこそげ取り、

長さ揃へて先の方の細き所を切り去り、余り長

き時は二つに切る（丸さも少し太き時は二つ或は

三つ位に割くべし）水に入れて洗ひ、炭酸ソーダ

を少し加へたる湯にて柔らかくなる迄湯煮し、箸

に打ち揚げ水をかけて洗ひ再び鍋に入れ、鏝煎汁

醤油、みりん酒等を加へ能く煮しめ、

次に、竹の皮を洗ひ、布巾にて能く拭ひ煮しめた

る午莠に、太き方と細き方とをたがひちがひにし

て五六本並べ、其上へうどん粉又はかたくり粉を

ばらばらとかけ、粉のしみる程、午莠を煮たる汁

をかけ、又午莠をならべて粉をかけ汁をかけ三段

くらゐ致して、竹の皮にてくるくると巻き、同じ

く竹の皮を細くさき、それにて結びとめ、蒸籠に

入れ蒸す、二十分間位にて出来上るなり、取り出

して五分位づゝに輪切りになし、竹の皮を取り去

り、切目を上に向けて皿などに盛るべし、

右割合は、午莠十本につき炭酸ソーダ二匁、か

つを煎汁一合、醤油四匁、みりん五匁、砂糖十

匁、うどん粉五匁餘

エツグス アラ フエンノア

食パンを二三分の厚さに二寸角位に切り、角のま

ゝにても或はかさを切り落して丸くなすとも好み

のまゝにして

炭火の上に金わみをかけ、其上へパンをのせて兩

面ともこげぬ程に焼き、皿に一つづゝ盛り置き

さて鍋に、水三合に鹽小匙に軽く二杯程入れ、火

にかけて煮立ちたる所へ、鍋の真中へブリキ製の丸き底のなき、杵のみのものを入れ、其中へ鶏卵一箇を割り込む（杵を入るゝは、玉子が大きくひろがらぬやうになり）、黄味をくづさぬやう其杵の真中に入れて湯煮し、白味の煮え黄味も半熟くらゐになりし時、杵を取り玉子を目杓子にてすくひ湯をきり、盛りたるパンの上に覆ふ如くのせ、其上にトマトソースを掛け、バセリを一と房添へて出すなり。

トマトソースは、トマトの實より作りてもよく、又瓶詰となり居る物を用ひてもよし、瓶詰のものにてなす時は、先づ鍋にバター小匙二杯ばかり入れ火にかけ溶けたる所へメリケン粉を大匙一杯ほど入れ、少しいたため、スツブ五勺ばかり入れゆるめさてトマトソースの瓶詰のものを二合位入るゝ、うすき時はメリケン粉を水にて溶き少しづゝ入れてどろりとしたる加減になし、鹽、胡椒にて程よく味をつけて田ふるなり、



## 六月常會の記

六月の常會は豫告の通り深川明治幼稚園に於て去る十二月一日午後一時半から開會された。場所が少し偏つたので出席の方が例よりは少し少ない様に見えた。定刻に至つて黒田主幹は立つて一場の挨拶をされた。

今日は色々計劃する所があつて演説なども数名の人に少しづゝ御話しをして頂いて色々々と變つた面白ことゝ御耳に入りたいと思つては居りました。生憎、昨日の午後より今朝に掛けて御断りの方が多くて遂に思ふ様に行かなかつたのは誠に残念であり且つは遠路御參會下さつた御方には甚だ御氣の毒の次第であります。そこで今日は藤井君と和田君とに御演説を願ふことに致しました。是より兩君の演説を始めとす。斯くて別項記載の通り兩氏の演説があつた。夫れより茶草を喫しつゝ、兩氏の演説につきて意見を交換した。

次に先頃高輪泉岳寺の境内に出來た幼稚園の主任